

北 河 内 会 報

自 然 愛 好 会

2016年1月8日 №.95
北河内自然愛好会発行
事務局 大東市野崎 3-7-7
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

第 369 回例会「奈良市佐紀町 古墳群と植物観察」奈良市

2015 年 9 月 22 日（火・祝）

栗田泰子

シルバーウィークの最中の 9 月 22 日、快晴の空のもと、木村雅行さんのご案内で西大寺駅を総勢 17 名で 9 時 30 分に出発。今日は古墳巡りと植物観察という珍しい取り合わせ。駅を出て直ぐに名前の分からないアサガオに出会い、写真を撮る人、採集する人、図鑑を見る人でしばし足が止まる（このアサガオは後日田中光彦さんよりマルバアサガオと教えて頂く）。植え込みにはブラジルコミカンソウが群生し、花は上向きに咲き、実が登熟するにつれて、下向きになることを教わる。秋篠川にはマメアサガオ、ベニバナマメアサガオ、ホシアサガオが仲良く可愛い花を咲かせている。モズの高鳴きもよく聞こえる。

最初の目的地は佐紀高塚古墳。ヒメスミレ、ホシダ、アメリカアゼナ、タカサブロウ、チョウジタデ、ヤハズソウ、ミゾカクシ、ガマ、ミゾソバ、ヨメナ、ヌルデ、ヨシ、コジイ、スズメウリ等を見て、佐紀石塚山古墳へ向かう。ここではガガブタが花を咲かせていた。続いて佐紀陵山古墳へ向かう。サカキの大木、ヒナギキョウ、ツクシハギ、オトギリソウ、イ、ウラジロ、コシダ、ワラビ等を見る。ツクシハギは葉が固めで、葉表無毛、花は白っぽくガク歯が丸いことを教わる。

瓢箪山古墳に向かう途中でビロードエノキグサを発見。枚方のものに比べ、ビロード感が強い気がする。墳丘に上がり、眼下の湿地でショウブやヌマトラノオ、オオクサキビ、ガマを見て、ショウブとハナショウブ、アヤメとの葉の見分け方を教わる。墳丘の上で樹齢 30 年くらいと思われるクロバイを発見。途中でイヌガシも見つける。瓢箪山古墳の池に戻り、広場の木陰で早めの昼食。ヒヨドリジョウゴの花名の由来など推測しあっている内に 12 時を回り、あわてて出発。

この先は足の向くまま平城宮跡方向に向かう。途中の佐紀池の畔でシロバナサクラタデを見つけ、サクラタデとの違いなどの説明を受ける。コブナグサの群生、ツルボの花を見て、市庭古墳へ。ここではザクロソウがたくさん出ていた。水上池近くでママコノシリヌグイ、オオタチヤナギ、ジュズダマを見て、コナベ古墳へ。お濠ではナンキンハゼ、ヒロハホウキギク等を見る。

次いで本日の植物観察の目的地のヒシアゲ古墳に向かう。お濠にはスイレンの大きな花の間に黄色い清楚なオオバナイトタヌキモの花が点々と咲いていて、一同思わず声を上げる。他にピンクの小さな花をつけたホソバナウナギツカミ、実をつけたタチカモメヅル、絶滅危惧種のムジナモ、コウホネ、ノアズキ、アリノトウグサ、青い実をつけたクロミノニシゴリ、赤い実のウメモドキ等も見られ、写真を撮る人、じっくり観察する人、採集する人等々、しばしの時間を過ごす。

最後の目的地のウワナベ古墳を眺め、平城宮跡の横を通り、振り出しの西大寺駅に 15 時頃無事帰着。木村さん、残暑の中、案内お疲れさまでした。そして、ありがとうございました。

他に見られた植物：ブタナ、ニシキハギ、ヤマウルシ、ヤマハゼ、アカメガシワ、モッコク、イヌマキ、ミゾソバ、ヌスビトハギ、シマスズメノヒエ、トダシバ、シナダレスズメガヤ、タチスズメノヒエ、アレチヌスビトハギ、エノキ、ケヤキ、ヒサカキ、スギ、ヒノキ、ヒメジソ、イヌコウジュ、ベニシダ、コハシゴシダ、シケシダ、ヤワラシダ、イヌケホシダ、カニクサ、ミズワラビ、ホソバヒメミソハギ、

ヤブマメ、アキメヒシバ、メヒシバ、オヒシバ、コメヒシバ、チカラシバ、ネズミノオ、チガヤ、ニワホコリ、コツブキンエノコロ、エノコログサ、アキノエノコログサ、ムラサキエノコログサ、ススキ、オギ、ヨシ、クサヨシ、イヌビエ、イボクサ、イモカタバミ、ハナカタバミ、アゲラタム（白・紫）、ネコハギ、メドハギ、ハイメドハギ、カヤツリグサ、コゴメガヤツリ、イガガヤツリ、マルバヤナギ、アラカシ、アオツヅラフジ、ヘクソカズラ、フジ、ナツフジ、サルトリイバラ、ノイバラ、キツネノマゴ、カタバミ、タマスダレ、コナラ、クヌギ、イヌビワ、ヤブガラシ、カナムグラ、エノキグサ、クワクサ、タカサゴユリ、コニシキソウ、ヒガンバナ等々

佐紀盾列(さきたたなみ)古墳群と植物巡り (木村雅行さん作成資料)

佐紀盾列古墳群は 4 世紀末から 5 世紀後半にかけて作られた、前方後円墳 17 基 (内、全長 200m 超 8 基)、方墳 19 基、円墳 25 基から成る古墳群。三輪山周辺の大和古墳集団、及び葛城北部の馬見古墳群と並ぶ大和の三大古墳群の一つ。

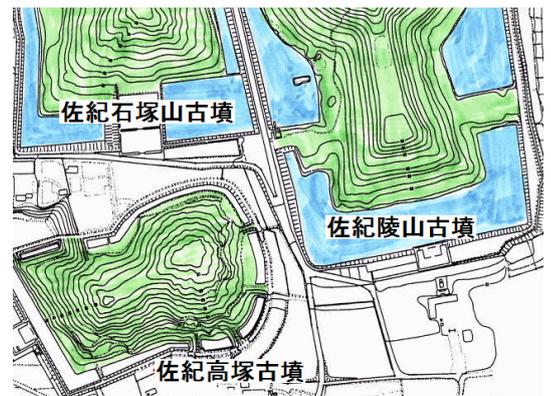
- ① 五社神古墳
ごさし
- ② 佐紀石塚山古墳
さきいしづかやま
- ③ 佐紀陵山古墳
さきみささぎやま
- ④ 佐紀高塚古墳
さきたかつか
- ⑤ マエ塚
ひょうたんやま
- ⑥ 瓢箪山古墳
まるづか
- ⑦ 丸塚古墳
しおづか
- ⑧ 塩塚古墳
- ⑨ オセ山古墳
ねこづか
- ⑩ 猫塚古墳
いちにわ
- ⑪ 市庭古墳
- ⑫ ヒシアゲ古墳
- ⑬ コナベ古墳
- ⑭ ウワナベ古墳



① 五社神古墳 (神功皇后陵古墳) : 五社神古墳 (前方後円墳・墳長 276 m) は、佐紀盾列古墳群最大の古墳。同時代に築かれた全国の古墳のなかでも最大級の規模を誇る。最も北に位置し、秋篠側からみると 4 段築成の墳丘が美しい。

② 佐紀石塚山古墳 (成務天皇陵古墳) : 佐紀石塚山古墳 (前方後円墳・墳長 218 m) は、佐紀陵山古墳の西隣に築かれた古墳。佐紀陵山、佐紀高塚と並んで「佐紀三陵」と呼ばれる。この三陵のうち、本古墳は台地の西端に築かれたためか、墳丘の東と西では数メートルの比高差がある。さらに前方部の長さも拝所をはさんで数メートルの違いがある。

③ 佐紀陵山古墳 (日葉酢媛命陵古墳) : 佐紀陵山古墳 (前方後円墳・墳長 208m) は佐紀三陵のひとつ。奈良山丘陵から南へ派生する中位段丘の西端に築造された古墳。隣接する佐紀石塚山古墳や佐紀高塚古墳の三古墳の中では最高所に位置しており、佐紀盾列古墳群の 200m 超の大規模前方後円墳では最古。



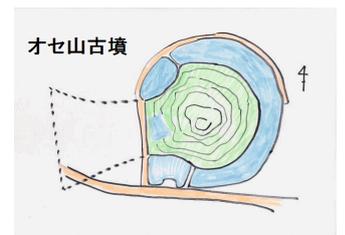
④ 佐紀高塚古墳（称徳天皇（孝謙天皇）高野陵）：佐紀高塚古墳は佐紀三陵のひとつ。前方後円墳。佐紀陵山・佐紀石塚山古墳と近接のため、立地上の制約からきわめて窮屈で不整形な形状。佐紀盾列古墳群の 200m 超の大規模古墳はすべて主軸を南北にとるが、この高塚古墳をふくむ中小型墳は猫塚古墳やオセ山古墳のように主軸を東西にとってあり（例外は瓢箪山）また前方部を西に向けていることは興味深い。周濠は 7ヶ所の堤防で仕切られているが、修陵時に加えられたらしい。奈良時代の称徳天皇陵とされているが、称徳（孝謙）陵は、西大寺の西方「高塚」の地に求めるべきとする意見が強い。

⑤ マエ塚：マエ塚は径 50m、高さ 7m と円墳としては大型の規模。昭和 40 年代に宅地化され完全に削平されている。周濠の跡が緩いカーブの舗装道路になっている。

⑥ 瓢箪山古墳：瓢箪山古墳（前方後円墳・墳長 77m）は、国の史跡として整備されており、佐紀盾列古墳群の中では墳丘に登れる数少ない古墳。1913 年に土取り工事によって前方部西半が破壊され、露出した粘土槨から琴柱形石製品が出土している。南向きで周濠は馬蹄型だが、南西部は丸塚古墳が存在していたため、途切れている。



⑦ 丸塚古墳：丸塚古墳は瓢箪山古墳の南西の周濠に接している径 45m の円墳。瓢箪山に先んじて築造されたため、瓢箪山古墳の周濠が完形になってない。1913 年大阪電気軌道（現在の近鉄）の工事のため、土砂が採取された時、青銅鏡、銅鏃、刀剣等多数の遺物が出土して、宮内庁が保管している。竹林の中にあり、墳丘の一部は現存している。かなり墳丘が土取りで変形しているが墳丘上には登れる。



⑧ 塩塚古墳：塩塚古墳（前方後円墳・墳長 105m）は、国の史跡に指定されている。埋葬施設は、後円部中央に粘土槨であり、盗掘されてしまった。棺内には剣・刀子・斧・鎌などの鉄製品が残されていた。

⑨ オセ山古墳：オセ山古墳は佐紀盾列古墳群の最も奥まった位置にある。現状円墳に見えるが、本来全長 65m の前方後円墳とみられ、前方部西側が「松林苑」築造時削られたとみられる。西側を除き幅 9.5m 内外の濠が巡る。堤で画される両端は改変によるためか幅広で水を湛えている。



⑩ 猫塚古墳：猫塚古墳は全長約 120m 前方部を西に向ける前方後円墳と考えられる。周濠は「松林苑」の苑池に、墳丘は築山として苑内に取り込まれていたと推定される。墳丘は著しく改変され、築造当時初の状態を知ることは困難。前方部と思われる地点で 1953 年の調査で、粘土槨、石釧、直刀、短剣出土している。現状では竹藪に覆われ墳形ははっきりしない。

⑪ 市庭古墳（平城天皇揚梅陵）：市庭古墳は全長 253m、後円部径 147m、前方部幅 100m という巨大な前方後円墳であったが、平城宮造営時に前方部が削平されている。残された後円部も規模を小さくして平城天皇陵とされた（考古学的には立証されてない）。平城宮造営という国家的工事により先人の古墳を削平したことが「続日本紀」にあるが、それが裏付けられた。現存している後円部も民家に挟まれ窮屈そうに存在している。



⑫ ヒシアゲ古墳（磐之媛命陵墓）：ヒシアゲ古墳は全長 220m、後円部径 120m の前方後円墳。現状前方部正面のみ、水を湛えた 2 重の周濠が存在するが地形図を見る限りこの 2 重周濠は後円部まで廻っている。現在は仁徳天皇皇后の磐

之媛陵に治定されている。佐紀盾列古墳群にはこの古墳をはじめ、伝日葉酢媛（垂仁天皇妃陵）、伝神功皇后（仲哀天皇妃）陵など皇后陵に治定された古墳が集中していることは興味深い。出土する埴輪には須惠質のものもあり、時期が中期でも新しいことを示している。このあたりは磐之媛陵が坂上陵と言われるようにこの近辺を坂上といい、当時の貴族たちの住宅地であったといわれている。

⑬ コナベ古墳（小奈辺陵墓参考地）

コナベ古墳は全長 210m、後円部径 130m、前方部幅 135m で三段築成の墳丘、左右のくびれ部に造り出しがつく。前方後円墳。外堤には円筒埴輪列があった。周濠は同一水面。その西側に規則的に配された方墳が 5 基並び、大型の円墳 1 基を挟み、更に 4 基の方墳が続く。墳の周囲には 10 基（方墳 9 基と円墳 1 基）の陪冢があり大阪の百舌鳥古墳群や古市古墳群と共通した要素を持つ。



⑭ ウワナベ古墳（宇和奈辺陵墓参考地）

ウワナベ古墳は全長 260m、後円部径 130m、前方部幅 130m で西側に造り出しがつく。前方後円墳。周濠の外堤の外側に更に幅 10m の外堀があったことも確認されている。佐紀盾列古墳の東群の中心的な古墳で規模的には県内で 5 番目、全国でも 13 番目の大きさを誇る巨大古墳。

外堤には 2 重の埴輪列があり、外堤全体で約 54,000 本の埴輪の数があったと推定される。墳丘に樹立されたものを含めると、全体では想像に絶する数の埴輪が樹立していた。埴輪には須惠質のものもあり、この時期の大和では最大の古墳である。6 基の陪塚とされる古墳が北側に存在していたが、終戦直後から米軍の付属設備建設のため 4 基が完全に破壊された。

◎参加者：栗田泰子、大寿賀尚・政子、太田 理、狩野金之助、木村雅行、久保幸子、鈴木永子、平研、田中光彦、長島照文、西畑敬一、川崎勝夫、前田初在？ 安藤香子、発 ひとみ、西口栄輔（以上 17 名）

第 370 回例会「キノコの観察会」（四條畷市）に参加して

2015 年 10 月 10 日（土）

長島 照文

ここ半月ほどは雨に恵まれずキノコの観察には不運というほかないが雨に合わせて日程設定ができるわけもなく運を天に任せざるを得ないのは仕方がない。キノコも気まぐれで年によって早く出たり遅く出たりと気ままなようで人間の都合に合わせてくれるわけではないようだ。

室池園地キノコ観察会は数年前、故上田俊穂先生が講師の北河内例会に参加した。その当時上田先生が「山溪」の「キノコ図鑑」に名を連ねておられるような人とは知らなかったが温厚な方で分かり易く解説して頂いたことが記憶に残る。今日の講師は「家の光」から出ている「キノコ図鑑」の執筆者の一人でもある下野先生。ベニタケ科の研究を今も続けておられるそうだ。

こんな第一級の講師を迎えての観察会の割には参加者が少ない。先生も含めて 6 人での贅沢なスタートとなった。賢明なるわが会員諸兄姉は晴天続きの天候から「今日はキノコは出ない！」と推察されたのだろうか。確かにご明察ではある。地面から生える柔らかいキノコはあまり見当たらない。まったくないわけではなく樹上性（埋もれ木含む）も含めての柔らかいものもいくつか採集されていた。採集詳細は別掲リストにお任せずとして私の印象に残ったものをいくつか紹介するとひとつはアラゲコベニチャワンタケ。5 ミリくらいで紅赤色のお碗状で拡大してみると縁に粗い剛毛が見えた。1 本が 1 センチ位のイヌセンボンタケの塊も初めて見たのでこれが千本も集まれば壮観だろうと想像。チシオタケ

も初見で名前の通り傷つけると赤い血がにじみ出る。ニガクリタケ（猛毒菌）とニガクリタケモドキ（不食）は苦いかどうかを嚙んで判定されたのも面白かった。1センチに満たないワサビタケも嚙んでピリッと来るか何人かが試した。すぐには辛さを感じないが時間差で「来た来たっ！」という声があがる。このようにモノによっては形態だけでなく、苦いか否か、辛いか否かと味見で最終判定する方法もあるとのこと。飲み込まずに吐き出せば大丈夫だとか。（カエンタケは触るのも口に含むのもダメ！）

カエンタケと言えは西畑会長がナラ枯れのコナラの根元で発見されていたものをみんなで観察した。まだ小指より小さい幼菌で指のようになるか成長が楽しみ（？）でもある。

また白い卵状の幼菌が3個採集されて同定会場で2個は切断面からシラタマタケではなくスッポントケと判明した。1個は参加者が持ち帰って成菌になるまでを観察されるとのこと。参加者は同定会場辺りで3人が追っかけ参加されて9人になった。

私は枚方方面から車で磐船街道を経て南田原で右折し、163号線から園地に入ったが街道沿いのナラ枯れも酷かったがそれに輪をかけるような室池園地のナラ枯れ拡大にも驚いた。園内にも枯死木の小枝、太枝が落下しており警告看板もあるが本当に風のある日は気を付けないと危ないなと思った。

◎当日見られたキノコの種類：アラゲコベニチャワソウタケ、イヌセンボンタケ、ウスヒラタケ（持ち込み）、ウズラタケ？、ウラベニガサの仲間、オシロイタケ？、カイガラタケ、カワラタケ、キウロコタケ？クサハツモドキ？、クジラタケ、クヌギタケ？、クヌギタケ属、クロコブタケ、コナヨタケ、シハイタケ、スギヒラタケ、スッポントケ、ダイダイタケ、チシオタケ、チャカイガラタケ、チャウロコタケ、ナラタケモドキ、ナヨタケ属、ニガクリタケ、ネンドタケ、ナンドタケモドキ、ハカワラタケ、ハナビラニカワタケ、ヒイロタケ、ベニヒガサ？近縁種、ホウロクタケ、ホコリタケ、ミイロアマタケ、ヤケイロタケ、ワサビタケ 以上36種

◎講師・下野義人先生 ◎参加者：田中光彦、長島照文、鈴木永子、久保幸子、栗田泰子、山田良之、山田美鈴、西畑敬一（以上8名）

第371回例会 「鞍馬・貴船 石めぐり」（京都市）に参加して 2015年11月29日（日）
稲原良三

集合・叡山電鉄出町柳9：50A.M. 解散・貴船神社奥宮 15：30P.M.

紅葉シーズンの日曜日ということで集合場所の出町柳駅改札前の空間は多くの人の行き交う場所になり団体客に隅へ押しやられながらも人混みの中、にぎやかな始まりでした。

久しぶりの方々と懐かしくご挨拶して期待を胸に、今回参加の11名は叡山電鉄の2両編成に乗り込みました。沿線の紅葉を楽しみながら終点の鞍馬駅まで。鞍馬駅に到着すると二人の参加者と合流して13名に、駅前広場には出店やお土産店と赤く大きく長い鼻の鞍馬の天狗のモニュメントが出迎えてくれました。

今日は石めぐりですので早速、鞍馬寺から歩いて3分程の石屋さん（採石場）へ寄って石の勉強をしてから鞍馬寺へ行きました。西村さんからレクチャーを受け鞍馬石を味わいました。

【鞍馬石】：石英閃緑岩と呼ばれ、断面は花崗岩に似ているがゴマ粒模様の中の黒い角閃岩が長細く、磁硫鉄鉱とともに花崗岩より多く構成されている。そのため時が経ち風化されると鉄分が酸化して茶色くなるのだそうです。これは地層の下から貫入してきた岩脈でできたそうです。

採石場には茶色の鞍馬石ばかりが並んでいて普通の石屋とは違い、つるつとした石やきれいな平面が見られません。地味な石ばかりですが、よく見て味わうと苔むして年季の入った庭園に置いても違和感のない、わびさびの世界観のよくお似合いの風格を持っています。一瞬、こんな平凡な石を買う人がお

られるのかなと思いましたが、日本ならではの静寂さや歴史に似合う石だと思いを改めました。

鞍馬寺の入り口に戻り、仁王門を歩いていよいよ境内の山中に入ります。途中の石垣や山肌から顔を出している石や説明板付きの名所岩などでそれぞれのレクチャーを受けて「へー、そうなんや!」「なるほど!」と感心しながらの寺社林の山ハイキングです。結構、上り・下りの激しい、道の形状も変化に富んで足元を気にしながらしっかりと歩く道のりです。

由岐神社～本堂金堂～背くらべ石～木の根道～大杉権現～義経堂～奥の院魔王殿～西門へと木々の多い森林浴を味わえる変化に富んだ良く整備された山道でした。途中、説明を受けた石を紹介します。

【緑色片岩】；塩基性火成岩を原岩とする結晶片岩をいう。緑色の外観をしている。

【砂岩・粘板岩（ホルンフェルス）】；木の根道にある硬い石の上を木の根が表面に出て地表を覆っている。地下のマグマ上昇の熱によって再結晶された非常に固い石である。

【石灰岩】；石灰質を主成分とする堆積岩のことで、本堂脇の庭石に希塩酸をスポイトで垂らすとブクブクと反応して泡が出ることを実験されました。もちろん他の石では反応泡が出ることなく水を垂らしたような結果でした。希塩酸で簡単に識別できる石灰岩に岩と思えぬ親しみを感じたのは私だけでしょうか？また、奥の院近くの石灰岩の表面観察でルーペを通して拡大された円形断面のフズリナを見せてもらいました。太古の生物をこの現代の今見ることのでき、過去から継続する地球を感じてうれしく思いました。

鞍馬寺西門を抜けて貴船川にかかる橋を渡り、上流方向に貴船神社前を通過して奥宮方向に歩く。道中の岩についても説明されました。

【輝緑岩】（輝緑凝灰岩）；貴船街道沿いの料亭前で一輪車の大きさぐらいの赤い光沢のある円盤状の石が飾って立ててある。この美しく艶のある濃く紅い石は貴船石として尊重されているようです。海底に堆積した火山灰の硫黄成分や海水成分などにより紅色や濃い緑色となったといわれています。

【玄武岩】（枕状溶岩）；貴船神社の奥宮の手前にある岩で枕ぐらいの大きさの塊がより集められて胴回り 9 mほどの岩石になったと説明されました。説明を受けて初めて解る程度の特徴でしたが、苔の付き方が明らかに違うため良く理解できました。

河原に降りて石拾いののち休憩し、奥の院あたりまでお迎えいただいた会員の山田晃さんが差し入れの温かいコーヒーとチョコで一息ついて 3 時過ぎに奥宮前で解散となりました。参加者最終 14 名でした。多くの石の解説、ありがとうございました。また、ごちそうさまでした。

§§【感想】村田啓子

旅行に行くとき様々な石に出会う。名前を知らないのですぐに記憶の外へ。でも、どこで生まれたのか堆積岩なのか火成岩なのかそれとも何か気になる。その興味を満たして頂いた一日でした。

鞍馬石は一目花崗岩のようでした。断面は結晶が細かくキラキラ輝いて美しく、外は鉄分で赤茶けているだけに一段と美しく見えました。緑の石は輝緑凝灰岩という石で貴船石と呼ばれていました。名前からしてもう少しきめの粗い石を想像していましたが、きめは細かくつやつやしていて、料亭玄関の飾りにも使われているほどでした。枕状溶岩の生い立ちの話は面白く、木の根道の粘板岩、奥の院の石灰岩など、歩きながらいろいろ見て考えて石に遊んでもらった楽しい一日でした。

丁寧に教えてくださった先生方、一緒に歩いていろいろ話をしてくださった皆様方、有難うございました。

◎参加者：波多野恵子 桑原由芽 桑原秀晃 村田啓子 大津由紀子 東郷弘子 今田順子 長島照文 寺西民子 篠田長政 山田晃 稲原ヒサエ 稲原良三 西村寿雄

《会員交流コーナー》

§§<犬も歩けばクズ、命>星田新池、水際にはコオニヤンマがスイスイと行き来して、軽やかにパトロールしています。堤防では、クズがどこまでもと、つる(いのち)を伸ばしています(添付)。この暑さを我が世とばかりに生きるその命の姿、よたよたのへたり気味なわが身にかすかな若芽にも似たものを萌やしてくれるような気がします。(8/9・平)

§§<犬も歩けばクマゼミ、サオトメバナ>今朝の星田新池への坂道(6時前)、草の葉にクマゼミが止まっていた(添付)。堤防で15分ほど体操、素振りなどして帰りに見たら、もういませんでした。眠っていたのですね。案外寝坊助ですね。路傍には、早乙女が赤い裳裾をからげて早苗を植える姿を偲ばせるサオトメバナ、私の好きな花が秋近きをほのめかしていました(添付)。池では2つがいのカルガモ、山ではコジュケイの元気な声が響いていました。(8/11・平)

§§<寝床にクワガタ>例年ならば、庭で仕事をしたらワンサと蚊に襲われるのに今年は寄りつきもしない。山で養殖のカブトも姿を見せません。ムシが極端に少ない今年、何としたことか寝床にヒラタクワガタの♀がいました(添付)。窓は開けていないのに、どこから入り込んだのか?服についてきたのか?お見舞いか?(8/13・平)

§§<スイミンゼミ>今朝も、星田新池への坂道で、クマゼミが眠っていました。帰りの15分後まだそこにいたので、手に止まらせても目覚めず、逃げませんでした。空中に抛り投げたらやっと思覚めて、山へ空高く飛んでいきました。“スイミンゼミ”でした。(8/18・平)

§§このところ山のあちこちで茶色く枯れた木が目立っています。ナラ枯れですね。いろんな人からも「なんで?」とよく聞かれます。そして「どうしたらいいの?」と聞かれると、う〜ム?!と唸ってしまいます。人が関わる道や場所なら伐採をするでしょうが、その後燻蒸処理など追いつくか?ある大学の先生は「自然の遷移よ」とさらりと言われたが、どうなのでしょう。室池園地でカエントケが1カ所見つかっています。(8/24・太田)

§§今日、大阪南港の関電と魚釣り園へ調査に行きました。魚釣り園は意外と人が来てにぎわっていました。いつも調査する草地が立ち入り禁止で、狭い空き地のみの調査でしたが、初めて見る草がありましたので、種名が間違っていないか教えていただけますか。イソヤマテンツキ・・・柱頭2。スナビキソウ、ハマアカザ・・・図鑑でもほとんど見る事が無かったので、肉厚の葉が図鑑では分かりにくく、以前見たホコガタアカザとは違うように思いました。それから、8月2日に鶴見緑地の緑のせせらぎの調査で、オイカワ幼魚と書いたスタッフがいました。あのような狭い小さな流れで、オイカワがいることが不思議でしたが、ここで繁殖しているのでしょうか。もちろん誰かが放流したのでしょうか、オイカワがあのような場所で世代交代していけるのでしょうか。種名を間違えて書かれたのかもしれませんが。誰か教えて下さい。よろしくお願い致します。(8/24・北川)

追記：一昨日、教えていただきたい植物で、スナビキソウと書きましたがアレチムラサキの方があっていように思いますがいかがでしょうか。アレチムラサキは3年前に同じ場所で見えますがもう花が終わっていましたので、記憶もあやふやで初めてみるのも同然でした。

§§オイカワ：普通、川の上流の細い流れにはオイカワではなく、カワムツが住んでいます。この場合、実物を見なければわかりませんが、カワムツには体側に1本の黒い筋があり、オイカワにはありません。それが識別のポイントです。(8/25・平) 追伸：書き忘れしました。鶴見緑地の場合は、自然の川ではなく、人工の川ですから、水温その他の生息環境が、オイカワに適していないとは言えないと思われます。オイカワがいても不思議ではないのでは?小さな用水路でオイカワの幼魚を見ることがあります。

§§アレチムラサキなら納得です。以前にもここで採集した覚えがあります。もう一つはイソヤマテンツ

キで間違いのないと思います。ハマアカザについては、この写真ではクエスチョンです。(8/25・田中)

§§質問の解答有り難うございました。今はネットで色々調べることができ便利になりましたが、あくまで参考で、やはり現場を知っておられる方に教えていただくと安心します。(8/25・北川)

§§「シラヒゲソウ」を見たいのですが、近くでどのあたりで見れるでしょうか。(8/30 西村)

§§私が近畿地方でシラヒゲソウを見たのは、滋賀県の田上山(上田昌弘さん・西畑さんも知っておられると思います)へのハイキング道と兵庫県・鳥取県の県境にある扇ノ山近くの林道沿いくらいです。もう少し近い所にもあるとは思いますが、不幸にして私は知りません。シラヒゲソウですが、近畿地方のレッドデータブックを見ると、奈良県南部と三重県南部(紀勢)にもあると載っていましたが、具体的な場所はわかりません。なお、滋賀・兵庫のものは、どちらも車の通る道沿いがありました。(8/31・田中)

§§シラヒゲソウの情報、ありがとうございました。ちょっと簡単に行けそうにないですね。(9/1・西村)

§§先日、摂南大の邑田先生より、田中光彦さんあてに、以下のメールが届きました。メールを添付しますので、ML参加のみなさん、お知り合いの会員に参加の呼びかけをお願いいたします。

「今年摂南ではトビカヅラに果実ができました。北河内自然愛好会の方で見学したい方がいたらぜひ見に来てください。下旬になれば私もおります。来年も出来るかは今のところ確約できません。」

田中さんから、邑田先生の話では、トビカヅラの果実は人口受粉でもめったにできないところが、摂南ではなにもしていないのに突然今年はたくさんの果実ができたということです。来年以降は、先生も定年退職後になるので、今のうちにできるだけ多くの親しい人に見に来て欲しいという気持ちでおられるようです。トビカヅラ以外にも温室を新しく改築されて今までに見られなかったものもいろいろあります。多くの会員に呼び掛けて、誘い合わせて見学を申し込んで頂けたらと思います。会としての申し込みは無理でも、有志のかたちで行けたらよいかと思います。私も窓口となって出来るだけのことはしたいと思います。丁寧な見学のできる最後の機会となる可能性があります。とのメールをいただきました。ここに、邑田先生と田中さんのご厚意に甘えて、皆様方にお誘いの案内をさせていただきます。

(10/1 実施要項略) (9/3・西畑)

§§<ヤマトタマムシ>我が家の庭にやってきたヤマトタマムシです。ここ1週間で2度もやってきました。この羽の美しさはいつ見ても人を引き付けますね。上の写真は羽を広げて飛び出そうとしています。下は羽をすぼめて静止の状態です。(頭部が切れています) (9/4・西畑)

§§<犬も歩けば>

1、1週間ぶりの今朝の星田新池 5時半過ぎ、いくら待ってもコオニヤンマは現れませんでした。夜明けが遅くなったのでまだ眠っているのか、次世代を残してこの世を去ったのか。スイスイと軽やかに飛び回る姿には元気を貰えるのに…。

2、堤防のクズの葉には成虫で冬を越すツチイナゴが生まれていました(添付)。新しい命は新鮮ですね。

3、妙見の川岸では、花陰でハナムグリがまだグッスリとおやすみ中(添付)。いいお宿ですね。

4、例の溝の柵ではネコハエトリが四つの目玉をギョロリ(添付)。いい目をしていますね。

5、南星台の山にはコジュケイの元気な声が響いていました。(9/4・平)

§§<私市植物園>久しぶりの天気、気になっていたナンバンギセルを写しに植物園へ行ってきました。

1、今年はあちこちに群がって咲いていました(添付)。盛りは過ぎたようです。

2、この花は2輪ぐらいがいいですね(添付)。

3、ギンヤンマが連結産卵していました(添付)。この姿は前から写したいと思っていて果たせなかつ

たシーンです。

4、ニホンアカガエルが足許から飛び出して、枯葉に隠れました。どのカエルも擬態は素晴らしいです。

5、ニホンカナヘビがバッタに飛びかかったが、逃げられました(添付)。オマンマを食べることは厳しいです。(9/5・平)

§§このところの四條畷市内の「なら枯れ」は目に余りますね。「緑の文化園」から「枯れ木文化園」に変身か。(9/11・西村)

§§ナラ枯れ被害は深刻ですね。緑の文化園の久保館長の話では園には 300 本以上の被害木があるそうですよ。完全駆除には何年かかるのでしょうか。(9/11・西畑)

§§もう打つ手がないようですね。しかし、これも生態学的には大きな植物層の転換期かもしれません。ずっとコナラ林を放置してきた結果、伸びすぎて、スズメバチなどが繁殖しすぎて、これから先どうなるのかも気がかりでした。自然の大きな浄化システムかも知れません。(9/12・西村)

§§ナラガレについて下記サイトがあります。

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/pubs/chukiseika/2nd-chuukiseika19.html> (9/14・西村)

§§<犬も歩けば>朝 6 時過ぎ、バス道山側のフェンスに止まっていた初めて目にする綺麗なガ、帰って図鑑やネットで苦労してやっと名前が判明、「アカスジシロコケガ♂」とありました。コケを食べるそうです。いい棒に当たりました。(9/13・平)

§§<タカ渡り観察>9 月 23 日、交野山の観音岩で交野野鳥の会がタカ渡り観察会を行います。(説明もします)。誰が参加しても OK です。参加費不要。時間=早朝から 15 時ごろまで(随時)です。興味のある方はどうぞ。(9/14・平)

§§この蝶の名前を教えてください。アゲハのような、キアゲハのような。私には判断できません。16 日に河北西町で見ました。(9/17・田中)

§§チョウは、キアゲハです。羽の付け根で識別しています。ナミアゲハより、鮮やかで、綺麗ですよ。(9/17・廣寄)

§§キアゲハだと思います。色は白っぽいようですが、個体差があり、模様のあり方がキアゲハのようです。(9/18・平)

§§キアゲハとのこと、ありがとうございました。昨日ついでがあったので長居の自然史博物館で備え付けの図鑑を当たってみたのですが、同じキアゲハとかアゲハとかいっても数十種類の模様や色の違う写真が載っていて判断できませんでした。簡単そうでなかなか難しいことがよく分かりました。改めて脱帽です。(9/18・田中)

§§<ハナグモ>植物園の花壇の花を片っ端しから覗き込んで廻りました。いました、ハナグモです。花のうてな(掌)で両手、両足を広げて獲物のムシを待ち構えていました(添付)。正式にはカニに似た形をしているのでカニグモ。その中で、花で餌を待ち構えているのをハナグモと呼ばれているようです。薄く緑がかって透き通るような数ミリの大きさ、両手を挙げて待ち構えている姿は可愛く、優雅です。でも、やることは獰猛。一度見たらファンになります。(9/20・平)

§§<中秋の名月>気になっていた今夕の空、すっきりと晴れて中秋の名月が東の空から上ってきました。今年も会えました。写せました(添付)。戴いた美味しい里芋の煮っ転がしで一杯(芋名月)の月見酒。「生けるしるしあり」です。(9/27・平)

§§<十六夜の残月>今朝の 6 時前、昨夜(十六夜-いざよい)の大満月が星田新池の西の山の端に沈もうとしていました(添付)。沈もうとするまん円の月もいいものですね。(9/29・平)

§§<庭にウグイスの巣>今日、久しぶりに庭の手入れをしていてビックリ、カシの木の枝にウグイスの

巣がありました（添付）。庭にウグイスの巣？…。この春から足の故障が相次ぎ、夏も暑く、庭の手入れする気も起らず、藪の庭は荒れ放題、メジロは何回か巣をかけたものの、ウグイスまでも、私にとっては理想の庭に近づいてきたのか？…。（9/29・平）

§§うらやましいですね。豊かな自然で、理想の庭。ウグイスも安心して子育ての出来る環境ですばらしいですね。（9/30・西畑）

§§<犬も歩けば>今朝はこんな棒が当たりました。

1、リンゴドクガ、初めて見る綺麗なケムシ、カメラを向けたら、背中黒模様をニューッと出しました。威嚇したつもりでしょうか。ドクガと名がついていますが、炎症をおこしたりすることはないとのこと。

2、エサキモンツノカメムシ、このハートは人間がハート形を考え出したより遥か遠い遠い昔から身に着けているのですね。人間がこのムシにヒントを貰ったのでしょうか？（10/3・平）

§§<星田田んぼ>今朝は寝すぎて、午前中星田田んぼを歩きました。

1、星田田んぼは豊作、広々と黄金の波、しあわせな気になります。

2、この時期一度は会いたい可憐なサクラタデ、会えました。（絶滅寸前）

3、足許から飛び立つコバネイナゴがワンサ、ノビタキの餌がいっぱい、たくさん来てくれたら嬉しいです。

4、遠くて何かわからなかったが、写してアップしたらノビタキでした。（10/7・平）

（追記：星田田んぼのサクラタデ、舌足らずでした。「絶滅寸前」は星田田んぼでの話で一般的なことではありません。ごめんなさい。）

§§<犬も歩けば>

1、まだ明けやらぬ空には、鋭い鎌のような三日月と明けの明星（金星）とが仲良く輝いていました。

2、バス道の山側のフェンスにヤマクダマキモドキが止まっていた。このムシ昨夜ここで鳴いて、そのままここで眠ったのでしょうか。サトクダマキモドキと標高 200～250メートルで棲み分けしてるそうですが、ここは標高 70メートルぐらいです。

3、スズメ 5羽が路上で餌をついばんでいました。これから種子が散って、路上採餌の姿が多くなるでしょう。この姿は好きです。（10/9・平）

§§いつも楽しく拝見しております。ヤマクダマキモドキですが、先日星田新池 100 mの地点で出会いました。（10/9 天野）

§§<この虫は？>今日、香里ヶ丘南公園のイヌムラサキシキブらしきものの葉に止まっていた昆虫、初めて見るもので、変わった姿をしていたので名前を知りたいと思いました。どなたか教えて下さい。葉が揺れるのと 3 級品の撮影者と写真機なのでピンボケでわかりにくいとは思いますが、よろしくお願ひします。（10/9・田中）

§§<この虫は？・返信>半翅目マエグロハネナガウンカの仲間ではないでしょうか。（10/10・天野）

§§ご教示ありがとうございます。インターネットで検索したところ、昆虫の世界には世にも不思議なものがわんさかいるということが少しわかりました。マエグロハネナガウンカで検索したところ、「北河内昆虫記」の名前があったのでこれを開くと、四條畷市下田原での記録でウスマエグロハネナガウンカというのが載っていました。写真を比べてみて、多分これではないかと思いました。勉強になりました。（10/10・田中）

§§<犬も歩けば—ビジョオニグモ（美女鬼蜘蛛）>こんな棒に当たりました。

初めて見る綺麗なクモ、例の溝の柵に止まっていた（6～7 ミリ）。調べてみると「ビジョオニグモ

—美女鬼蜘蛛」、美女と鬼の取り合わせ—オニグモの仲間で美女を思わせる綺麗さか？そしてこのクモの張る網は金色に光ると云う。今度はその網を見たい。でもオニグモは夜行性で、夕方に網を張り、朝には網を食べて畳んでしまう。（食べてリサイクルしているとか）明日、夕方行ってみよう。

(10/12・平)

§§「美女鬼蜘蛛」ですか。クモ界にも、「美女」がいるのですね。ぜひ金の糸をゲットして下さい。

(10/12・西村)

§§<犬も歩けば>

1、路傍のコスモスの花を覗いたら、小さなハナグモ（7～8ミリ）が、いました。精一杯両手を広げて獲物を待ち構えていました（添付）。こんなチビの体で倍もあるハチをも狩るそうな。背中模様から人面グモとも…。

2、柵にいたこのクモ、なんと肢が4本（添付）。4本ももぎ取られるには何があったのでしょうか。この状態で餌が獲れるのでしょうか。野生の厳しさ…。(10/13・平)

§§<教えてください>11日に大阪市阿倍野区の桃ヶ池・長池の調査に行ってきました。桃ヶ池で池の中で見つけたオモダカの仲間はサジオモダカでしょうか？ここは古い池ですが植栽でしょうか。ノグルミの実生と思われるものを見つけましたが合っているのでしょうか。ノグルミを植栽しているところもありないと思うのですが、どこから運ばれてきたのでしょうか。桃ヶ池では餌付けをする人がいて、アオサギやゴイサギがグラウンドにおりていました。長池では釣りをする人が沢山いるのですが、その横にアオサギが待っているのです。釣り人は釣った獲物をアオサギにあげるのでしょうか。人が近寄っても動じませんでした。(10/13・北川)

§§サジオモダカでいいと思います。帰化植物にナガバオモダカとヒロハオモダカがありますが、花の付き方が違うように見えます。もう一つのノグルミは、樟葉の淀川の堤防でもたくさん幼木が見られます。工事に伴って入ってきたようです。貼りつけた芝生の中に種子が混じっていたのではないかと思います。そちらにも似たような状況ではないかと思います。なお先日、南港魚つり園に行ってきました。ハマエノコロがたくさん生えていました。このあいだの質問の答えの一つです。あとアカザの仲間らしいものを2種類、昨日、元博物館学芸員の瀬戸剛先生と近植会長の山住さんに見てもらって同定を依頼しましたが、二人ともわからないということでした。どちらも帰化もので、よく似たややこしいものがあるようです。なお魚つり園にはバスがすぐにはなかったのですが、フェリーターミナル駅から歩きましたが、南港南3丁目から6丁目にかけて、かもめ大橋をはさんで、道路沿いにずっとアレチイネガヤがたくさん生えていたことを付記しておきます。アレチイネガヤは帰化植物写真図鑑2巻に載っています。

(10/14・田中)

§§天高く…の秋、いかがお過ごしでしょうか。当地田原で行っています観察会のご案内です。田原にいらっしゃいませんか。詩語り詩人の里みちこさんが来られる予定です。里さんは大阪城公園で路傍に座り、20年間毎朝集う人々に詩を語っています。国連大学や全国各地で講演、朝日新聞にもよく登場し、有名な方です。

「森のあそび」：茶目っ気出して木々（きき）として 森を歩くと三本の木から森の精気のプレゼント 本気になって木々（もくもく）と 勇気もらって林々（りんりん）と 元気出てくる森々（もりもり）と 【森の下に木、木が4つ】（ジャングル）行きのパスポート

私が観察会で時折使う詩です。勝手にコピーすると怒られますが、内緒で2枚だけ、雰囲気がよく伝わりますので添付。里さんは文字遊びもよくします。まだまだいろいろ楽しい詩があります。ホームページ「詩がたり工房「里」」で検索してみてください。11月21日（土）9時戎公園バス停前集合。

学研都市線四条畷下車、四條畷市コミュニティバス「四條畷駅」8:25 発→9:01「戎公園」着があります。よろしく願いいたします。(10/18・太田)

§§収穫の秋です。アリもせっせとコゴメを収穫、運搬中です。2 枚目は以前、田中さんが配信されていたニセシマニシキソウです。野崎にもありました。3 枚目の蛾の名前を教えてください。(10/19・西畑)

§§ガはホシヒメハウジャクだと思います。昼活動します。ホシヒメハウジャクの食草はヘクソカズラです。蓼食う虫もおれば屁糞を食うムシも…。(10/20・平)

§§早速の同定、ありがとうございます。食草がヘクソカズラとは、本当に、蓼食う虫もなんとやら、糞食う虫も好き好きか？ですね。(10/21・西畑)

§§体調不良でいつもの元気がない岡田さんですが、日本画に賭ける情熱は沸々としたものを感じます。来る 12 月 8 日～15 日大阪市中央区「アートスペースフジカワ」で日本画展をやるって。そのギャラリーは知る人ぞ知る有名なところで並の画家ではなかなか個展ができないそうです。1、2、3 階全部を使って特に大きい作品を展示するという。案内葉書に「最後の個展を開きます」とあり、“最後の”は余計なのではと言ったのですが、「大きい作品展示はこれが最後」という意味でホッとしました。しかし、今日お家に訪ねて、葉の副作用？に苦しんでいるようで、“勝手に応援団”を組織しなければならないかも、と思っています。そんな中で奥さんの三千代さんも一水会の展覧会があるとのこと、負けてませんね。一水会展覧会は葉書持参で入場できます。ご連絡いただいたら葉書の手配をいたします。北河内の皆さんにご案内したいとこのことで、皆さまに郵便でお知らせいたします。とりあえず ML メールでお知らせいたします。是非とも励ましの言葉をお願いいたします。(10/21・太田)

§§シマニシキソウ、必ず採集して標本にして下さい。よろしく願いします。(10/21・田中)

§§<くろんど園地で>今朝は寝過ごしたので、朝食後くろんど園地までバイクを飛ばしました。例のカラスザンショウ前にはカメラ三脚を立てた人 5 人、私も杖を一脚代わりにしてカラスザンショウにカメラを向けました。遠くて種名も分からぬチラチラする鳥影にシャッターを切るだけでした。キビタキが写っていました(添付)。ムシを求めて歩いていたら、足元にマムシの幼蛇がいました(添付)。ノギクの花にはメスグロヒョウモンの♀が吸蜜していました(添付)。永い間サービスしてくれました。(10/28・平)

§§昨日、岡田三千代さんが出展されている一水会展(市立美術館一天王寺)に行ってきました。50～100 号の大作 247 点、いずれも圧倒される迫力、感動と興奮のひと時でした。岡田さんの出展は「リズム」と題された 100 号の大作、幾つかの水滴(雨)の波紋がリズムカルに広がっており、雨の音も画面の奥からリズムカルに聞こえてくるのを感じさせられました。見ていて、奥へ奥へと引き込まれていくようで、その場から離れられませんでした。(11/12・平)

§§ホームページについてのコメントは二人目です。ありがとうございます。今まで、写真等を UP しても反応がないので、みなさんに役立っているのかどうか気がかりでした。また、みなさん時々は見てください。「会則」「入会案内」については、次の総会で決めてもらったのを掲載する予定です。(11/14・西村)

§§<犬も歩けば>今朝の星田新池、ようやく夜が明けてきた 6 時半ごろ、ウグイスの囀りが聞こえました。先日もおなじ方向から聞こえました。今頃の季節にはよく耳にすることがありますが、気象条件：気温、湿度、明るさなどが初春と似た状況になったとき、囀り神経が刺激されるのでしょうか。季節外れの少し呆けた声もまたいいですね。(11/16・平)

§§<天野川のカルガモ>「なんや、アホな」と笑ってください。昨日、天野川を歩いていて、カルガモ

にカメラを向けました。カモ語の判らない私にジェスチャーで語ってくれました。

1、見せたるか。 2、恥かしい。 3、もうええやんか。 4、さいなら。(11/21・平)

§§カルガモの気持ち、同感です。平さんの鳥に対する思い入れに感服です。(11/21・西畑)

§§<イダテンチャタテ>今日、伊藤ふくおさんの催しで奈良の大淵公園を、冬に備えたムシたちの生き様を見ながら歩きました。エノキの幹をイダテンチャタテ(韋駄天茶点て虫-4 ミリ大)が走り回っていました(添付)。目玉が横に突き出た変な頭をしている変なこのムシ、冬でも走り回っています。韋駄天とは、よくぞ名付けたものです。(11/22・平)

§§<蛇のこと教えてください>11月22日に鶴見緑地東にある水路で撮影した画像にヘビが写っていました。カラスが食べていたのですが、これは遠くからでは分かりませんでした。近くによると、赤く白っぽく見えた(水路の上からだだったので)のでザリガニを食べていたのだと思っていました。画像を見て初めてヘビだと気がつきました。このヘビはアオダイショウでしょうか?それと、カラスはヘビを捕るのでしょうか?たまたま死んだ蛇がいたので食べていたのでしょうか。カラスはあのヘビを一度に全部食べるのでしょうか?身近な動物のはずなのに何も知りません。よろしく願い致します。(11/23・北川)

§§これはタウナギです。(11/23・西村)

§§これは、最近、めっきり姿を見なくなった、タウナギです。以前は田んぼの水路などに、多くみられたのですが、最近ではめっきり姿を見ることがありません。非常に珍しいことです。私の中学生頃(昭和35~36年頃)は捕まえて真水で泥をはかせカバ焼きにして食べた記憶があります。今でもまれに姿を見ることがありますが、ここ数年姿を確認していません。久々の貴重な写真、うれしく思いました。農業の技術進歩と農薬の影響で激減したんだと思います。タウナギが暮らせる環境が戻ることをねがうばかりです。(11/23・西畑)

§§これは鱗がありません。ヘビではなく、ウナギかタウナギではないでしょうか。(11/23・平)

§§タウナギの情報有り難うございました。さすが河内の野獣さんはしっかり食べられてはったんですね。味はどうだったのかなあ?カラスにもご馳走だったんでしょうね。あれだけ大きな獲物でしたら、その日の狩はもうしなくてもいいのかなあ?色んな疑問が湧きます。とりあえず有り難うございました。(11/24・北川)

§§明日からの岡田さん日本画展の準備に行きました。大阪の中心部、堺筋本町のフジカワ画廊1階から3階まで全部使ったの展覧会は重鎮の画家がするそうです。準備に入るや否や三千代さんの足に激痛が・・夫婦ともにこの展覧会に賭ける意気込みの”負のスパイラル”に襲われたか?!松葉杖をついて戻って来た三千代さんが展示チェック。2、3の架け替えを希望。とにかく夕方までに終えることができました。息子さんが画廊の様子をビデオに撮って報告するとのこと。岡田さんは今入院中、期間中出て来れるかどうか分かりません。今回は私も初めて見る大作も展示されています。絵の前に佇んで、鑑賞すればきっと心が癒される作品と私は思っています。皆さん、是非ご覧いただけたらと念じています。(12/8・太田)

§§ただいまご紹介にあずかりました?岡田の息子です。太田先生、展示準備から広報まで、ご尽力どうもありがとうございます。手の込んだコントみたいな1日でした。病人・ケガ人夫婦の展覧会で果たしてどれだけ癒されるのか、なんとも心許ありませんがよろしければぜひお越し下さい。念のため以下日程・会場等ご案内しておきます。(12/8・岡田勉太)

§§きょう、岡田さんの絵をみさせていただきました。なつかしい芦生の森の木々やその他の植物を鋭い観察眼で表現した技法には感嘆させられました。また、幸運にも岡田さん本人にもお会いでき感激ひと

しおです。病状厳しい中、会場に足を運ばれて来場者と言葉をかわされているのをみると、個展にける岡田さんの絵に対する執念のようなものが感じられました。(12/13・西畑)

§§岡田さんの画展を見せてもらいました。芦生の森で幾百年を生き抜いた力を秘めたカツラの老大木、その根元から萌え出てきた新生のすがすがしい命の芽吹き、200号の大作から50号まで55点、総てが野の花木や野菜などが緻密に描かれている中に、チョウやガ、トカゲなどの小さなムシが何気なく存在しているが、そこには草や木とともに絡まり合っている生きものの命を暖かく見つめている岡田さんが見えます。画面の奥から射し出る幽かな明るさは心を洗ってくれるようです。小さな生きものたちは、何気なく描かれているようですが、はっきりとその種類が解り、その配置や大きさなども緻密に場所を得て描かれています。まだその余韻に浸っています。(12/13・平)

§§岡田さんの画展の55点の中に描かれているムシたちを数えてみました。チョウ=33、ガ=8、カナヘビ=2、トカゲ=2、コオロギ、カマキリ、トンボ、ササキリ、キジバト、スズメ、各1で、合計51でした。木も草も、これらのムシたちも、共に絡み合ってお互いが、お互いを生かし合っている命への讃歌が籠められているのをつくづく感じさせられました。(12/14・平)

§§岡田さんの個展、600名の人たちの鑑賞で盛況裡に終わりました。土・日は岡田さんも病院から駆けつけて皆さんと交歓したとのこと、ご夫婦共々たいへん喜ばれていました。当画廊は有名画廊で、グループ展でも200~300名、有名個展でも500~600人が訪れるほどだそうで、岡田さん繋がりがいかに多いかと思わざるを得ません。平さんが感受性鋭い鑑賞文を寄せられて、三千代さんもたいそう喜んでおられて、早速プリントして皆さんに読んでもらっていました。(12/16・太田)

§§お世話になります。穂谷の野活への登り道で見たのですが穂谷で過去の調査記録があったのでしょうか。あったとすればカンアオイなのでしょうか。私が見たのは白いモザイクのような大きな模様が鮮やかな葉だったのですが。教えていただければ嬉しいです。(12/13・長島)

§§穂谷のえびこ道の葉に白斑のあるカンアオイの仲間?はミヤコアオイだと思います。(12/15・木村)

§§写真がないのでなんとも言えませんが四條畷の権現川沿いにもミヤコアオイがあります。(12/15・西村)

§§お返事ありがとうございます。やはりそうですか。北河内植物目録(2004)には穂谷の記録がなかったのですが「枚方市の植物」(2002~2006)(いきもの調査会)を調べてみたら「穂谷の山地の林床に見られる」とあったのでこれかも知れないと勝手に想像していたところです。おっしゃる通りえびこ道でした。確定できてスッキリです。本当にありがとうございます。写真なしの同定依頼で反省しています。ありがとうございます。(12/17・長島)

§§先日(12/12)懸案になっていました植物目録補遺の作成について田中さん、木村さんと話をしてきましたので報告します。作成、出版は2017年1月の2016年度の総会までに行う。作成は田中、木村、天野、西畑、その他協力者をもって行う。出版費用については概ね約20万円が必要となる。内容は発行部数500冊、A4版で行う。印刷費用は約15万円に送料、会員(93名)及び寄贈(前回寄贈した機関)の郵送費約5万円、以上が概算の費用です。現愛好会の運営費の半分以上が必要となる計算です。みなさまのご意見、ご提案をお願いいたします。(12/17・西畑)

§§<久米田池で>昨日、交野野鳥の会の久米田池での水鳥の観察会で、寒干しで干上がった池の底をオオバンがノコノコと歩いていました。クイナの仲間は足に水かきをもたない代わりに足指が長い、泳ぐことの多いバンは足指にヒレを付けていることは承知していたが、今日初めてオオバンの足指を見てビックリ、こんな凄いものを付けていたのか(添付)。水陸両用の生活をして生き残ろうと、永い進化の過程で働かせた知恵と逞しさを目の前に見たようで感動しました。(12/21・平)

§§昨日の雨上がりに、尊延寺を歩いてきました。肉厚の手頃の大きさの天然もののシイタケを採集することができました。同じ倒木に姿形の良いヒラタケも出ていました。また、別の場所では、コナラと思われる切り株や、その横に切り倒して積んである幹にたくさんの大きなヒラタケがありました。さらに別の所ではコムラサキシメジもありました。いずれも新鮮できれいなものばかりだったので、夕食は鍋にして、たっぷり旬のキノコを食べることができました。キノコのシーズンは秋だけではありません。

(12/25・田中)

§§美味しそうなシイタケ類をたくさん収穫出来て良かったですね。キノコのお鍋はさぞかし美味しかったことでしょう。今度はなっちゃんも尊延寺に連れて行ってください。山に生えているもの何でも好きです。昨日、今日は大阪城公園に行ってきました。オジロビタキとハイタカの写真を撮ってきました。明日は大泉緑地公園に行ってきます。年内にまた飯盛山に行けたらと思います。ベニマシコが来ていると聞いたので確認に行きたいなど。来年も同行させてくださいね。来年は毎週水曜日は予定が入りましたので水曜日以外でお願いします。では来年もよろしくお願いします。よいお年をお迎えください。追伸 飯盛山の花です。右は睡蓮の池に咲いています。名前を教えてください。(12/25・もも)

§§<天野川のコガモ>昨日、バイク修理中の時間(11時過ぎ)、天野川を歩きました。中洲でコガモが数羽眠っていました(添付)。昼間にこのように安心しきった集団での眠り。そこで思ったこと。

1、餌をよく食べて腹いっぱい状況。(この川は餌の藻が豊富、水深が浅く、コガモの首の長さに適合、掘ってコガモがこの川に多く渡ってくる理由の一つ)。

2、ここが安全である(左右の堤防には遊歩道があり、人が絶えず歩いており、天敵のタカなどが寄りつかない。その堤防は高く、人や猫、犬なども寄りつかない。この安全確保に人が大きく寄与している)。

3、地形的に開けており、安心感が保たれる。近くに同じ水鳥のサギたちも多く安住している。「コガモと天野川」について思いついたことでした。(12/27・平)

§§今年平成 27 年もあと数時間、いろいろとお世話になりました。ありがとうございます。好いお年をお迎えください(添付)。(12/31・平)

§§あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。今日、飯盛山頂から久方ぶりに野崎側におりました。大東エリアは山道もよく整備されていました。ただひとつ苦言です。大東野外活動センター側から飯盛山頂に向かうルートに 10 から 20cm 径の丸太の玉切り材が何列も横に並べられています。かなりの傾斜地でありこの並べ方は歩行に危険です。特に下りは晴天でもすべりやすいです。どこに言えばいいのかわかりませんが機会がありましたらハイカーからの忠告として伝言して下さい。

(1/2・西村)

§§<犬も歩けば>1月2日、食べ過ぎ、飲み過ぎの不健全さから一時避難して午後、星田妙見さんへと歩きました。130段の石段を登れました。途中の溝の柵には、この寒さの中でヒゲナガサシガメの幼虫、イダテンチャタテの幼虫、木の幹には何かのガのケムシたちも 2016 年の正月を生きていました(添付)。

(1/3・平)

§§<正月のムシ>昨日、通りがかりの近所の児童公園に立ち入り、クスの幹に何かおらぬかと撫でていたら、何か動いたような、よく見たら 2~3 ミリのイダテンチャタテでした(添付)。今年の正月の陽気にイダテン(韋駄天)は走らずにはおれなくなったのか…。誰かさんとおなじ? ウィンドウズ 10 への UP と元への戻しの繰り返し 3 回、やっと使いやすい 10 にすることができました。(1/8・平)

◎会員異動について（敬称略）

退会：足立明美（枚方市）今期で退会させていただきます。いろいろお世話になり有難うございました。

（12/31）武田孝子（交野市）本年期で退会いたします。今までお世話になりました。（12/31）

10月末日の自然退会者（会員 No、氏名、住所地、退会日）

150 河合真弓 大阪市 10月31日

151 河合正人 大阪市 10月31日（家族会員）

154 森田清子 交野市 10月31日

入会：古井秀子（東大阪市）春の金剛山、観察登山に参加されていました東大阪市の古井秀子さんが本会に入会していただきました。中町さんのご友人です。（5/6）

◎編集後記：2016年明けましておめでとうございます。今年はどんな年になるのでしょうか。この正月は暖かく、過ごしやすいのは良かったのですが、これも地球温暖化の影響か？と思うと、それも喜んでいられないところです。COP21で削減196カ国・地域参加、パリ協定採択。日本の温室効果ガス削減の目標引き上げを見定めればなりません。編集等について皆様のご意見ご要望、またお気軽にご投稿をお願いいたします。（太田）

<p>【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114 ◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507 ◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2</p>
<p>北河内自然愛好会 年会費 1000円 郵便振替 00970-4-103735</p>

目 次

第369回例会「奈良市佐紀町 古墳群と植物観察」奈良市 栗田泰子 1
第370回例会「キノコの観察会」（四條畷市）に参加して 長島 照文..... 4
第371回例会「鞍馬・貴船 石めぐり」（京都市）に参加して 稲原良三..... 5
会員交流コーナー..... 7
会員異動、編集後記..... 16
カラーグラビア.....別刷

本会会員・岡田雅彦氏画
「ファレノプシス」



「岡田雅彦日本画展」にお越し下さりありがとうございました。